

令和6年広島県議会9月定例会提案見込事項

1 その他の提出案件

(1) 令和5事業年度広島県公立大学法人業務の実績に関する評価結果について

ア 概要

令和5事業年度の広島県公立大学法人の業務の実績について、県の附属機関である広島県公立大学法人評価委員会による評価結果を報告する。

イ 評価結果

令和5事業年度の業務実績については、5つの大項目のうち、1項目が「順調」、4項目が「おおむね順調」の評価であり、全体評価としては「年度計画の実施がおおむね順調である」と評価できる。

- ・「順調」：Ⅰ 教育の質の向上
- ・「おおむね順調」：Ⅱ 研究の質の向上、Ⅲ 新たな教育モデルの構築、
Ⅳ 地域貢献・大学連携の推進・学生の支援、Ⅴ 法人経営

※ 大項目評価は、次の5段階で評価
S(特筆すべき進捗状況)・A(順調)・B(概ね順調)・C(やや遅れている)・D(重大な改善事項がある)

【主な内容】

I 教育の質の向上 ～県立広島大学 A「順調」	
専門教育の充実 学部・学科等の再編 学部のマネジメントの確立	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「課題探究型地域創生人材」の育成に向けて、副専攻プログラムや全学共通教育科目などの教育プログラムについて、継続して教育内容の点検・見直し検討を行っている。また、学生の自主的な学修の充実に向け、授業改善やシラバスの記載見直しに取り組んでおり、学生アンケートでは授業の総合満足度が95.4%となるなど、学修者本位の授業が展開されている。 ○ 専門教育においては、各学部・学科等が、少人数授業やフィールドワークの実施、国家資格や教員免許の取得支援等に取り組み、保健福祉学部では、全ての国家試験において、全国平均を上回る高い合格率を達成するなど、これまでの取組の成果が着実に現れている。 <p>【今後の取組・意見】</p> <p>引き続き、教育内容の充実や学生の主体的な学修の促進を図るとともに、教学マネジメントの確立に向け、適宜、検証を行いながら柔軟に取組を進められたい。</p>
国際化の促進	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海外大学との新たな国際交流協定の締結や、留学生の受入れが低調となっている協定校を訪問して交換留学の再開や学生受入れに繋げるなど、協定校との連携強化に取り組んでいる。また、短期語学研修プログラムに係る奨学金の拡充や、留学を通じた学生の成長を、ルーブリック評価を用いて可視化・公表することにより、学生の留学意欲の向上に取り組んでいる。 ○ 円安や物価高騰の影響により、依然として厳しい留学環境が続く中、数値目標の達成には至らなかったものの、協定校との連携強化や海外派遣学生・留学生への支援の充実を図り、派遣学生数・留学生受入数ともに前年度から増加するなど、取組の成果が現れている点が評価できる。 <p>【今後の取組・意見】</p> <p>引き続き、キャンパスのグローバル化に向けて、学生の海外派遣や留学生の受入れに取り組むとともに、日本人学生との交流拡大、留学生への支援の充実に努められたい。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">大学院教育の充実</p>	<p>《経営管理研究科（HBMS）》</p> <p>【取組と成果・課題】 正規課程の充実に加え、文部科学省「職業実践力育成プログラム」の認定プログラムのほか、福山市や竹原市と連携して、地域の経営人材の育成を目指す講座を開講するなど、実践的・専門的な社会人教育プログラムを展開しており、正規課程の志願者数及び社会人教育プログラムの受講者数ともに、数値目標を継続して達成しており、取組が計画を上回って進展しているものと評価できる。</p> <p>【今後の取組・意見】 引き続き、地域や企業・団体等のニーズを踏まえて、高度な専門能力と卓越した実践力を備えた経営人材の育成に取り組まれない。</p> <hr/> <p>《総合学術研究科》</p> <p>【取組と成果・課題】 学部の早い段階からの進学説明会の開催や、ウェブサイトによる広報などに加え、令和5年度は、内部進学者向けの経済的支援制度の運用開始や、情報マネジメント専攻において、学部生が大学院の授業を早期履修できる「学士・修士5年一貫教育プログラム」制度の活用を進めるなど、大学院への進学促進に取り組み、令和6年度の定員充足率は、前年度から大きく改善し数値目標を達成した。</p> <p>【今後の取組・意見】 最終年度において、定員充足率100%を達成できるよう、より一層取組を強化されたい。</p>
<p>II 研究の質の向上 ～県立広島大学 B「おおむね順調」</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">外部研究資金の獲得支援</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部資金の獲得に向けて、文部科学省の科学研究費補助金に係る申請書作成支援や、申請のポイントをまとめた大学独自のハンドブックを作成するなど、教員への支援策の充実を図るとともに、獲得資金の一部を研究費として還元する制度の試行など、教員の意欲を高める取組に取り組んでいる。 ○ こうした取組を通じて、科学研究費補助金の申請率、獲得件数は数値目標を達成し、とりわけ獲得件数は、中四国・九州地方の公立大学の中で、17年連続で1位を獲得した点は評価できるものの、金額の大きい競争的資金に係る研究の終了に伴い、獲得総額は目標額を下回った。 <p>【今後の取組・意見】 最終年度における目標達成に向け、より一層、外部資金の獲得のための組織的な支援の充実や、教員のインセンティブ向上に取り組まれない。</p>
<p>III 新たな教育モデルの構築 ～叡啓大学 B「おおむね順調」</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育プログラムの整備等</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開学3年目の令和5年度は、「叡啓大学実践教育プラットフォーム協議会」を拡充し、3年次の学生が翌年度の卒業プロジェクトに向けて、課題解決演習の深化に取り組むとともに、海外での体験・実践プログラムでは、前年度を大幅に上回る学生が参加するなど、実践的な教育の充実が図られており、叡啓大学が掲げる教育プログラムが着実に実施されていると評価できる。 ○ 学生の学修の成果を図るための成績評価制度については、これまでの取組を検証し、評価対象科目の絞り込みや、ルーブリックの見直しを行っているところであるが、今後も継続して、制度の改善や学内定着に取り組む必要がある。 <p>【今後の取組・意見】 引き続き、「新たな教育モデル」の実現に向けて、教育の質の向上に取り組むとともに、令和6年度の第1期生の卒業に向け、学生が希望する進路を実現できるよう、きめ細やかなキャリア支援に取り組まれない。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">留学生の確保</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学年完成を迎える令和6年度に、大学全体で100人の留学生受入れを目標としているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、留学生の受け入れが困難な時期があったことから、留学生数は39名に止まっている。 ○ しかしながら、令和5年度においては、国内外の日本留学フェアや進学説明会への参加、独自の給付型奨学金制度のPR、留学サイトによる情報発信強化に取り組み、令和6年度（秋入学見込者）は定員20名を確保するなど、取組の成果が現れている。 <p>【今後の取組・意見】 引き続き、多くの留学生を確保できるよう取組を強化するとともに、海外の協定校との活動の活発化や留学生への支援の充実を図り、叡啓大学が掲げる多様な価値観の集うキャンパスの実現に向けて取り組まれない。</p>

<p style="text-align: center;">志願者の確保</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オープンキャンパスやオンライン説明会の複数回開催、高校に出向いての模擬授業の実施など、教職員が連携して志願者確保に取り組むとともに、ホームページやSNSに加え、新聞・ビジネス誌、WEB記事などの各種メディア掲載を通じた積極的な情報発信により、叡啓大学の教育についての認知度向上・理解促進に取り組んでいる。 ○ しかしながら、令和6年度入学選抜においては、英語力に係る厳格な出願要件の影響などにより、志願倍率は1.8倍に止まっており、依然として志願者の確保が極めて重要な課題となっている。 <p>【今後の取組・意見】</p> <p>最終年度の目標達成に向け、より一層、志願者確保の取組を強化されたい。</p>
IV 地域貢献・大学連携の推進・学生の支援 ～共通 B「おおむね順調」	
<p style="text-align: center;">リカレント教育</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県立広島大学では、幅広い学習ニーズに対応した公開講座を開講しており、受講者アンケートでは、満足度 93.0%、有料講座受講者の 89.4%が「学修成果を活用できそう」と回答するなど、県民の学習ニーズを満たす講座が提供されている。また、各学部等の専門性を生かした、社会人等の専門的スキルやマネジメント能力の向上を図るリスキリング講座も実施している。 ○ 叡啓大学においても、社会人を対象とした公開講座や研修会の開催などのリカレント教育の推進のほか、県内高校を対象とする模擬授業の実施や探究的な学習に係る研修会の開催など、叡啓大学が実践する「新たな教育モデル」の普及、浸透に取り組んでいる。 <p>【今後の取組・意見】</p> <p>引き続き、生涯学習や社会人のリスキリングなど、県民や企業等の幅広いニーズに応えるプログラムの提供により、リカレント教育の推進に取り組まされたい。</p>
V 法人経営 ～共通 B「おおむね順調」	
<p style="text-align: center;">法人運営の効率化等</p>	<p>【取組と成果・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2大学を擁する法人として、管理部門の共通化や施設の共用など、効率的な法人運営体制の確立に取り組んでおり、令和5年度は、勤怠管理システム及び電子決裁・文書管理システムの構築に取り組むとともに、令和6年度からの共通事務の本部集約化に向けた制度設計や調整を行うなど、更なる業務の効率化・共通化を進めている。 ○ また、令和4年度の県監査委員の外部監査における指摘事項について、内部監査の実施、職員への啓発、電子決裁システムの導入による審査体制の一元化など、再発防止に向けての取組が推進されている。 <p>【今後の取組・意見】</p> <p>引き続き、事務の効率化に取り組むとともに、内部統制が有効に機能するよう、研修会の開催等を通じた職員のスキルアップや、チェック体制の強化等に取り組み、効率的かつ効果的な法人運営体制の構築とコンプライアンス確保に努められたい。</p>

- (2) 県が資本金の四分の一以上を出資等している法人の経営状況説明書について
- ・ 広島県公立大学法人